

特定非営利活動法人 全国町並み保存連盟

代表者	前野 まさる
所在地	〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-14 宝栄西新橋ビル 401号
設立年月日	1974年4月17日
URL	http://www1.odn.ne.jp/~cah24160/matinami.index.html

【設立趣旨・活動目的】

全国町並み保存連盟は、1974年（昭和49）に「今井町を愛する会」（奈良県橿原市）、「妻籠を愛する会」（長野県南木曾町）、「有松まちづくりの会」（愛知県名古屋市）という3つの住民組織によって結成された団体です。地域の文化と歴史的町並みを活かしたまちづくりを進めるために、「町並みはみんなのもの」を合言葉に、「郷土の町並み保存と、より良い生活環境づくり」をめざして、設立されました。

【沿革】

- 1973年11月15日 今井町にて第1回妻籠・有松・今井合同町並み保存協議会を開催、連盟結成を協議
- 1974年4月17日 「町並み保存連盟」結成
- 1978年6月25日 加盟団体が10団体となり、「全国町並み保存連盟」に改称
- 1978年4月22日～23日 第1回全国町並みゼミ有松・足助大会「町並みはみんなのもの」
- 1982年7月17日～18日 第5回全国町並みゼミ東京大会「語ろう明日の町並み町づくり」
- 『町並みかわら版』発行・本部事務局は妻籠で東京事務局発足、個人会員制度の導入
- 2000年 文化財保護法50周年記念事業実施、文部大臣表彰、歴史的町並み・集落保存憲章制定
- 2003年6月 特定非営利活動法人の認証を受ける
- 2009年11月13日～15日 第32回全国町並みゼミ佐原・成田大会「歴史的資源を生かしたまちづくり」

【活動内容】

設立当初は会長団体に事務局を置いて3団体から全国の仲間を増やしていきました。その中でお互いの情報交換と学習のために、1978年（昭和53）に最初の全国町並みゼミを開催。これは、住民・市民が企画したゼミに、自治体関係者や研究者が手弁当で参加し、みなが同じテーブルにつくという、当時としては画期的な勉強会で、現在も続いています。小樽運河をはじめとする多くの町並みや歴史的建造物を守っていく原動力となるとともに、ここで勉強し、育った人々



全国町並み保存連盟の仲間たち

が、現在のわが国の歴史的な町並みまちづくりを支えています。一時は活動が停滞し、町並みゼミを開催するだけという時期もありましたが、2003年（平成15）のNPO法人化を契機に、団体と個人会員の位置づけを明確にし、より信頼を得られる団体をめざしています。また、最近では全国町並みゼミの規模が大きくなりすぎたことから、ブロックの連携を強めていこうとブロックゼミが行われるようになり、既に今年で3回目を開催した九州ブロックに続き、来年は北陸・甲信越ブロックと関東ブロックでブロックゼミが開催される予定です。

【活動上の課題と今後の展望】

30年以上にわたる活動の中で、歴史的町並みを取りまく状況も大きく変わってきています。当初は、歴史的町並みの破壊に対する「保存」でしたが、国選定の重要伝統的建造物群保存地区が全国で80地区を超えた現在、歴史的町並みは広く認められるようになってきました。また、市町村条例や景観法、歴史まちづくり法など、歴史的な町並みを重要な核として施策でも捉えられるようになってきており、今後、さらに歴史的町並みの保存を進める地区が増えてくることでしょう。その一方で修景が進むとテーマパークのような画一的な町並みに変わってしまうという不安や少子高齢化・市町村合併による地域の誇りが失われる、町並みを成立させてきた産業が大きく変換するなど、新しい課題も生まれています。町並み保存連盟の会員には、行政と連携を図りながら、地域の意見のとりまとめや事業の調整を行っている団体が多く、互いに情報交換しながら、住民・市民の立場から発信を続けています。加盟団体66団体のうち、1/4強が財団・社団・NPOの法人格を持ち、今後、さらに地域での主体的な役割を担っていくことでしょう。一方、有松（愛知県名古屋市）や鞆（広島県福山市）のように、保存対策調査が終わりながら、地元合意に苦慮している団体もあり、これからも他機関と連携をはかりながら支援を続けています。また、長年の活動の中で世代交替が進まない、当初の目標を見失うなど、休眠状態の団体もでてきています。設立40周年を前に歴史的町並みやまちづくりを進める会員をどうサポートしていくかが、今後の課題です。



年4回の理事会にあわせて見学会などを開催
高知・吉良川の町並み



第32回全国町並みゼミ会場の佐原の町並み
甲信越ブロックと関東ブロックでブロックゼミが開催される予定です。



第33回全国町並みゼミ会場の盛岡鈍屋町